

込みの後に葉状歯が形成される。はさみ脚の各節は肥大している。歩脚は比較的太い。

分布 — 日本固有種。相模湾から九州北部までの浅海に生息するほか、日本海では富山湾から記録されている。鳥取県沿岸新記録。

XXIV. オウギガニ科 XANTHIDAE

118. サメハダオウギガニ *Actaea semblatae* Guinot, 1976 (図 28-118)

甲幅 2.5 cm。甲の輪郭は幅の狭い楕円形で、後側縁が狭まり、その背面部に後方 2 対の歩脚が収まる。甲面は顆粒で様に覆われ、ざらざらしている（和名の由来）。胃域、鰓域、心域、腸域が明瞭であるが、各域は細分されていない。甲の前側縁は 4 歯からなるが、各歯は突出しない。はさみ脚、歩脚とも甲面と同じかやや鋭い顆粒で密に覆われている。はさみ脚は比較的大きい。

分布 — 男鹿半島および房総半島以南、両沿岸を九州まで、インド西太平洋に広く分布する。潮間帯から水

深 50 m までの岩礁に生息する。

119. ヘリトリマンジュウガニ *Atergatis reticulatus* De Haan, 1833 (図 28-119)

甲幅 5 cm ほど。甲の前側縁が大きく湾曲し、後側縁が後方に強く狭まっているため、甲の輪郭は全体として横長の楕円形を呈する。甲面はあまり盛り上がりせず、甲域に分けられているが、甲域に多数の縦、斜めの皺があるため、甲域は不明瞭に見える。甲の前側縁には板状の縁取りがある（和名の由来）。はさみ脚、歩脚ともに甲面と同じような皺がある。はさみ脚の掌部上縁、歩脚の前縁は板状。

分布 — 青森県および房総半島以南九州、東南アジア。岩礁海岸の浅海から水深 30 m に生息する。

120. トガリオウギガニ *Cycloxanthops truncatus* (De Haan, 1837) (図 28-120)

甲幅 2.5 cm。甲の輪郭は前方の 2/3 が大きく湾曲し、後方の 1/3 が強く狭まるため、全体としては丸い印象を受ける。甲面は平らで、滑らか。甲域は細い線で分けられている。額部が前方に突出することが特徴である（和名の由来）。甲の前側縁には 5 歯あるが、全体として不明瞭で、歯としてほとんど認められないような個体もいる。体の大きさに比較してはさみ脚は強大である。

分布 — 日本固有種で、青森県以南の日本海、東京湾から九州西部までの太平洋沿岸。外洋性の強い岩礁に生息する。鳥取県沿岸新記録。

121. ケブカアワツブガニ *Gaillardiiellus orientalis* (Odhner, 1925) (図 28-121)

甲幅 4 cm、甲の輪郭は幅の狭い楕円形。甲面は前後左右に適度に湾曲し、甲域に細分されている。各甲域は粟粒状の顆粒で様に覆われ、鰓域、原胃域、心域にやや長い毛束がある。甲域を分ける溝は深く、短毛が生えている。甲の前側縁には 4 歯あるが、それぞれ先端は尖らない。はさみ脚、歩脚とも甲面と同じような顆粒で覆われている。また、甲の側面や歩脚には汚れた感じの毛が密生している。

分布 — 男鹿半島および房総半島から九州まで両沿岸、韓国、中国北部、香港。磯から水深 30 m までの岩礁に生息する。



図 27 (マルバガニ科). 116: マルバガニ *Eucrater crenata* De Haan, 1835. 117: キバガニ *Heteroplax nitida* Miers, 1879.

122. ホラガニ *Hepatoporus orientalis* (Sakai, 1935)

甲幅 1.5 cm ほどの小型種で、はさみ脚と歩脚を縮めると、小石のように見える。甲の輪郭は丸みのある六角形で、甲面は全体として弱く盛り上がる。胃域、心域、鰓域が幅広く浅い溝で隔てられている。額はやや突出し、中央に小さな切れ込みがある。甲の前側縁の前半部にくぼみがあり、はさみ脚の腕節と掌部の基部にあるくぼみとともに、はさみ脚を縮めた時に丸い洞穴ができる(和名の由来)。はさみ脚の腕節や掌部には小孔が多数あって軽石状の粗面を呈する。
分布 — 日本固有種で、相模湾の浅海(水深 20-120 m)の礫底から記録されている。日本海新記録。

123. オウギガニ *Leptodius exaratus*

(H. Milne Edwards, 1834)

(図 28-123)

甲幅 3.5 cm。岩礁に生息する代表的なカニで、はさみ脚の両指が黒い。甲は前に広い扇形(和名の由来)で、甲面が盛り上がることはない。甲面は深い溝で甲域に区分されているが、各甲域が細分されることはない。甲の前側縁は眼窩外歯を含めて三角形の 5 歯がある。はさみ脚は特にオスでは長大で、両指の先端はくぼんでいる。

分布 — 房総半島および青森県以南、インド西太平洋海域に広く分布する。

124. ムツハオウギガニ *Leptodius sanguineus*

(H. Milne Edwards, 1834)

甲幅 4 cm。甲の輪郭などはオウギガニによく似ているが、甲の前側縁は眼窩外歯を含めて 6 歯ある(和名の由来、オウギガニでは 5 歯)。甲域はオウギガニよりも深く刻まれていることが多い。

分布 — 相模湾以南、インド西太平洋海域に広く分布する。日本海では鳥取県沿岸からの記録のみ。

125. オガサワラベニオウギガニ *Liomera boninensis*

(Odhner, 1925)

甲幅 2 cm ほどで、甲の輪郭はやや横長の六角形。甲面は顆粒で覆われ、各甲域が盛り上がっている。また、前側縁にそって背面方向に弱く反り返っている。額は広く、甲幅の 1/2 で、前方にやや突出している。甲の後縁も額とほぼ等長である。甲の前側縁は 4 歯に刻まれているが、第 2-4 歯は先端が尖った三角形である。甲の後側縁は前側縁と等長で、後方に強く狭まる。はさみ脚の掌部上縁、歩脚の各節上縁は薄板状。

分布 — 小笠原諸島が基産地で(和名の由来)、日本固

有種。相模湾から土佐湾までの水深 30-100 m から記録されている他、富山湾からも記録がある。鳥取県沿岸新記録。

126. チリメンベニオウギガニ *Liomera erythra*

(Lanchester, 1900)

(図 28-126)

甲幅 1 cm ほどの小型種で、甲面は小顆粒や小さなくぼみで覆われている(縮緬状、和名の由来)。額は幅広く、甲の輪郭から出ている。前側縁の 4 歯は等大で、丸い。原胃域は縦に完全に二分されている。歩脚各節の前縁はわずかに板状。

分布 — 伊豆半島から南、アジア各地の浅海岩礁に生息する。日本海では島根県沿岸から記録されている。兵庫県産。

127. ベニオウギガニ *Liomera venosa*

(H. Milne Edwards, 1834)

甲幅 4 cm で、この属の最大種。甲の輪郭は著しく横長の楕円形。甲面は中央部が平らであるが、周縁部は下方に湾曲している。甲域は細い線状の溝で隔てられているが、全体として不明瞭で、顆粒はなく、滑らかで光沢がある。甲の前側縁は丸い 4 歯に分けられ、第 2 歯と第 3 歯の間、第 3 歯と第 4 歯の間のそれぞれから甲の内方に向かう浅い溝が出ている。雄のはさみ脚は強大で、滑らか。歩脚にも顆粒はない。大型個体は一樣に赤色であるが、小型個体では全体が白色、あるいは甲の左右、側縁部だけが赤ないし橙色の個体も見られる。

分布 — 東京湾以南、東南アジア、オーストラリア、インド洋東部。潮間帯下部から水深 30 m くらいまでの岩礁に生息する。日本海では秋田県からの記録がある。鳥取県沿岸新記録。

128. スエヒロガニ *Medaeops granulatus* (Haswell, 1882)

(図 28-128)

甲幅 2 cm。甲の輪郭はむしろ横長の菱形に近い。甲面は甲域に分けられているが、全体として平らで、額、眼窩上縁、前側縁に沿った部分は浅くへこんでいる。甲の前側縁は眼窩外歯に加えて 4 歯あるが、前方は眼窩外歯よりも下肝域の方に向く。はさみ脚は強大で、多くの顆粒で覆われている。

分布 — 男鹿半島および東京湾以南九州、インド西太平洋海域に広く分布する。岩礁の低潮線から浅海にかけて生息する。鳥取県沿岸新記録。

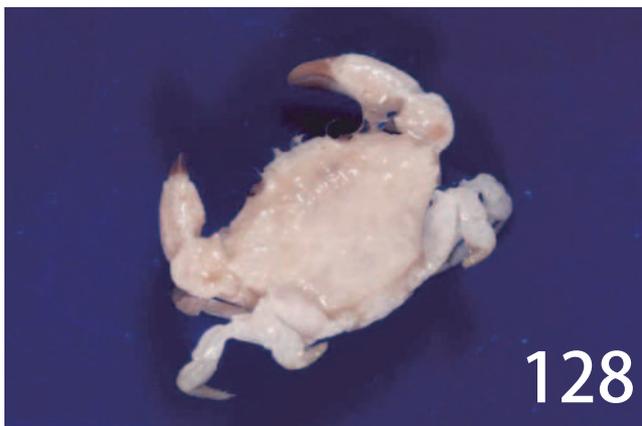


図 28 (オウギガニ科) . 118: サメハダオウギガニ *Actaea semblatae* Guinot, 1976. 119: ヘリトリマンジュウガニ *Atergatis reticulatus* De Haan, 1833. 120: トガリオウギガニ *Cycloxanthops truncatus* (De Haan, 1837). 121: ケブカアワツブガニ *Gaillardiiellus orientalis* (Odhner, 1925). 123: オウギガニ *Leptodius exaratus* (H. Milne Edwards, 1834). 126: チリメンベニオウギガニ *Liomera erythra* (Lanchester, 1900). 128: スエヒロガニ *Medaeops granulatus* (Haswell, 1882). 129: ヒメシワオウギガニ *Microcassiope orientalis* Takeda & Miyake, 1969.

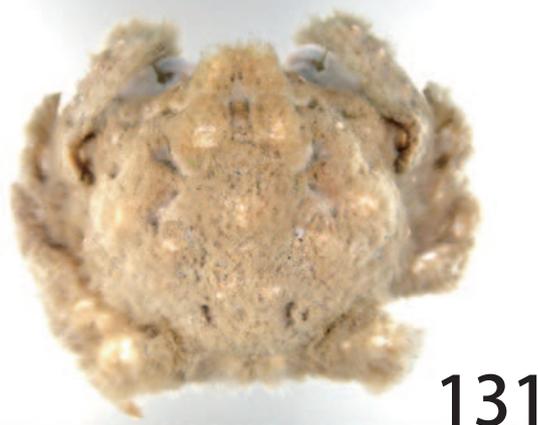


図 29 (オウギガニ科の続き) . 130: サガミヒメオウギガニ *Nanocassiope granulipes* (Sakai, 1939). 131: ドロイシガニ *Zalasia dromiaeformis* (De Haan, 1839).

129. ヒメシワオウギガニ *Microcassiope orientalis*
Takeda & Miyake, 1969

(図 29-129)

甲幅 1 cm ほどの小型種で、オウギガニ *Leptodius exaratus* (H. Milne Edwards) の若い個体のように見える。甲の輪郭は丸みのある扇形で、胃域、心域、腸域、肝域、鰓域はいずれも明瞭に区分され、鰓域は細分されている。各甲域上には小顆粒が連なった短い稜が多数あり、粗面を呈する。額縁の背面に横に走る稜があるため二重縁となり、中央の切れ込みで 2 葉に分かれている。左右のはさみ脚は同形同大で、比較的大きい。指部は先端が鋭く尖る。雄では指部の黒色が掌部外面の半分以上に広がっている。

分布 — 日本固有種で、九州北部の浅海から記録され、天草諸島などからも報告されている。日本海新記録。

130. サガミヒメオウギガニ *Nanocassiope granulipes*
(Sakai, 1939)

(図 29-130)

甲幅 5 mm をわずかに超える小型種で、甲は横長の

楕円形に近い。甲面は小顆粒におおわれ、細い線で甲域に分けられている。各甲域は盛り上がることはなく、甲面全体として比較的平坦である。甲の前側縁はやや尖った 4 歯に刻まれているが、甲の輪郭から大きく突出することはない。はさみ脚、歩脚とも小顆粒で覆われており、はさみ脚の指部の黒色が目立つ。歩脚は細い。雄の第 1 腹肢は特徴的で、先端近くに根元に向けて湾曲する棘毛の束がある。

分布 — 相模湾から九州にかけて、浅海の岩礁に少なくない。インド洋西部からの記録があり、また、近年、南太平洋から近縁種が 2 種記載された (Davie 1995)。日本海新記録。

131. ドロイシガニ *Zalasia dromiaeformis* (De Haan, 1839)
(図 29-131)

甲幅 5 cm ほどの大型種。甲、はさみ脚、歩脚とも軟毛で覆われており、一見カニとは思えないほどである。甲面は前後左右に強く隆起し、深い溝で甲域に分けられている。甲の前側縁は緩やかに弧を描き、後側縁との交点に瘤状突起が一つある。

分布 — 東京湾および富山湾から九州までの水深 30-100 m から知られているほか、オーストラリア東岸からの記録もある。

XXV. イワオウギガニ科 ERIPHIIDAE

132. イボイワオウギガニ *Eriphia ferox* Koh & Ng, 2008

甲幅 3 cm。甲の輪郭は丸みのある六角形で、甲そのものが厚く堅い。線状の溝で額域、胃域、心域が区分され、粗い顆粒が集まっている。甲の前側縁には 5, 6 個の尖った顆粒が並び、後方ほど小さい。はさみ脚は左右どちらかが大きく、外面は尖った大きな顆粒で覆われている (和名の由来)。岩のくぼみに入っている。分布 — 相模湾および島根県以南、西太平洋各地の岩礁、サンゴ礁に広く分布する。鳥取県沿岸新記録。

XXVI. スベスベオウギガニ科 MENIPPIDAE

133. スベスベオウギガニ *Sphaerozius nitidus*
Stimpson, 1858

(図 30-133)

甲幅 2.5 cm ほど。幅狭い横長の楕円形。甲面は滑らかで光沢があり、前後に強く湾曲している。甲の前側縁の 4 葉に分かれているが、各葉は甲の輪郭から突出することはない。はさみ脚は強大で、左右どちらかが大きい。

分布 — 男鹿半島以南の日本海、仙台湾以南九州、インド西太平洋海域に広く分布する。磯から浅海にかけ

ての岩礁，サンゴ礁に生息する。

XXVII. イソオウギガニ科 OZIIDAE

134. イソオウギガニ *Ozius regulosus* Stimpson, 1858

甲幅 5 cm ほどで，甲の輪郭は横長の楕円形。甲面の湾曲は弱く，額域や前側縁に近い部分には横皺や顆粒列が多い。甲域は浅く広い溝で分けられている。特に胃域は明瞭で，また，甲の前側縁の第 4 歯（最後歯）前からの溝が胃域の横に達し，さらに鰓域の後方にも横に走る浅い溝がある。額は鈍頭の 4 歯からなる。甲の前側縁には前方に平たい 2 歯，後方に鈍く尖った 3 歯がある。左右のはさみ脚は不等，右大で，各節に甲面と同じような皺や顆粒列がある。右のはさみには大きな 2 歯があるが，左のはさみには小さな歯が並んでいる。外洋性岩礁の石の下に生息する。

分布 — 鹿児島湾，小笠原諸島以南，インド西太平洋海域に広く分布する。兵庫県産。日本海新記録。

XXVIII. ゴカクイボオウギガニ科 GALENIDAE

135. ゴカクイボオウギガニ *Halimede fragifer*

(De Haan, 1835)

(図 31-135)

甲幅 2.5 cm ほどで，甲の輪郭は五角形に近い。甲面には上部が平滑な大小の疣状突起があり，浮き彫り模様のように見える。額は突出し，中央の切れ込みで 2 葉に分かれる。甲の前側縁には 4 鈍歯があり，最後歯だけがやや離れている。はさみ脚の腕節，掌部にある顆粒も甲面と同様に疣状である。歩脚には軟毛の縁取りがある。腹部は雌雄ともに 7 節である。

分布 — 東京湾および青森県以南，インド西太平洋海域の浅海に広く分布する。鳥取県沿岸新記録。

XXIX. ケブカガニ科 PILUMNIDAE

136. イボテモドキ *Actumnus forficigerus* (Stimpson, 1858)

(図 32-136)

甲幅 2 cm ほど。甲の輪郭は幅の狭い扇形。甲面は前後に湾曲し，長短の毛で覆われている。甲域は不明瞭。甲の前側縁は先端の尖った 4 歯からなる。はさみ脚は強大で，腕節や掌部は顆粒に覆われているが，それほど密ではなく，また，先端が小棘になっている顆粒も多い。

分布 — 日本近海に固有で，相模湾から九州にかけての浅海に生息する。日本海新記録。

137. ミゾイボテガニ *Actumnus intermedius* Balss, 1922

(図 32-137)

甲幅 2.5 cm。甲面に毛はなく，大きめの顆粒が敷き詰められている。甲は前方 1/3 と後側縁に沿った部分がへこんでいる。甲の前側縁には眼窩外歯の後方に先の尖った 3 歯がある。はさみ脚は強大で，左右不同。腕節，掌部は甲面と同じ大きな顆粒で覆われている。腕節と掌部の上部内縁に沿って深い溝がある。

分布 — 茨城県以南九州，フィリピン (Takeda & Manuel 2000)。生息水深 18-150 m。日本海新記録。

138. スエヒロイボテガニ *Actumnus setifer* (De Haan, 1833)

(図 32-138)

甲幅 3 cm ほどで，輪郭は幅の狭い扇形。甲面は前後左右に強く湾曲し，フェルト状の短毛で覆われている。各甲域は狭く深い溝で分けられているが，毛が短いため不明瞭である。甲の前側縁は 4 葉に分けられているが，突出することはない。はさみ脚は強大で，左右どちらかが大きい。掌部外面は小顆粒で覆われてい



図 30 (スベスベオウギガニ科) . 133: スベスベオウギガニ *Sphaerozium nitidus* Stimpson, 1858

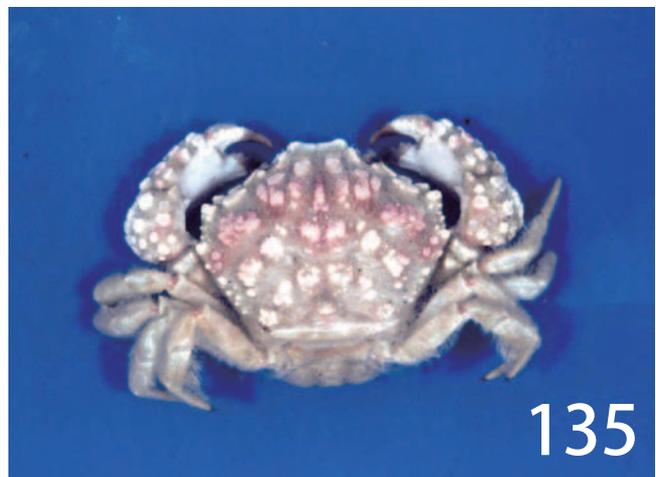


図 31 (ゴカクイボオウギガニ科) . 135: ゴカクイボオウギガニ *Halimede fragifer* (De Haan, 1835)

る。はさみ脚、歩脚ともに短毛で覆われているが、歩脚に前縁の毛は長い。

分布 — 新潟県以南および房総半島以南、インド西太平洋海域に広く分布する。生息水深は潮間帯から水深120 m。鳥取県沿岸新記録。

139. イボテガニ *Actumnus squamosus* (De Haan, 1835)

(図 32-139)

甲幅2 cmほどで、甲はわずかに横長。甲面は強く盛り上がり、甲域も明瞭。ピロード状の短毛で覆われるほか、胃域部にやや長い毛の束がある。甲の前側縁には先端の鋭い4歯がある。はさみ脚は強大で、左右でわずかに大きさが異なる。はさみ脚の掌部外面は円錐形の突起が敷き詰められている(和名の由来)。

分布 — 東京湾および新潟県以南、東南アジア沿岸を経てインドまで分布する。生息水深は潮間帯から155 mであるが、324 mという記録もある。

140. トラノオガニ *Benthopanope pearsei* (Rathbun, 1932)

甲幅1 cmの小型種。甲の輪郭は幅の狭い楕円形に近い。甲面は滑らかで、甲域は不明瞭。額域、胃域に小顆粒と毛からなる横稜があり、また、前側縁の第2、第4歯から内方に向かうやや長い稜もある。甲の前側縁の4歯は甲の輪郭に沿っている。はさみ脚は左右で大きさが異なる。腕節と掌部は膨らんでいて、滑らかである。歩脚は細い。岩礁のウミトラノオ(海藻)の根元にいることが多い(和名の由来)が、その他の海藻類やムラサキイガイの間などでも見られる。

分布 — 相模湾および富山湾以南に分布する。原記載地はインド洋東部のメルギー諸島である。鳥取県沿岸新記録。

141. バルスガニ *Calmania balssi* (Sakai, 1935)

(図 32-141)

甲長、甲幅ともに7 mmほどの小型種。甲面に小孔が散在しており、そこから数本の毛が生えている。額は幅広く、縁よりもやや上部に剛毛列が横切っている。甲の前側縁は弱い稜になっており、3個の低い突起がある。はさみ脚は短く、腕節と掌部に疣状の顆粒がある。分布 — 相模湾および東シナ海の浅海から知られている。日本海新記録。

142. カルマンガニ *Calmania prima* Laurie, 1906

(図 32-142)

甲長、甲幅はほぼ同じで、約1 cm。甲面は平らで滑らか。胃域の両側のやや盛り上がった部分があり、毛の

束があることがある。額と眼窩上縁が癒合して板状。額の中央部に切れ込みがあり、額縁に長毛が生えている。前側縁は後側縁よりも明らかに短く、1、2個の鈍頭の突起がある。はさみ脚は比較的大きく、各節の内面は平らである。不動指の切断縁の基部は大きくへこんでいるため、可動指との間に大きなくぼみが形成される。

分布 — 原産地はスリランカで、その他の海域からの記録はないが、日本近海では相模湾から九州、日本海南部の浅海砂泥底に少なくない。鳥取県沿岸新記録。

143. クシハガニ *Ceratoplax sagamiensis* Sakai, 1935

(図 32-142)

甲幅2.5 cm。甲の輪郭は丸みのある四角形で、前方にやや開いている。甲面は弱く湾曲し、甲域は浅い溝で不明瞭に分けられているが、盛り上がることはない。額は下垂して2葉に分かれている。甲の前側縁は丸く湾曲し、3つの浅い切れ込みがある。眼柄は眼窩に完全に収まっていて不動で、角膜部にはわずかに色素が残っている。はさみ脚の腕節と掌部の外側上部には顆粒があるが、指部に近い部分では滑らかである。歩脚の底節の上面に数個の櫛の歯状の突起がある。

分布 — 日本固有種で、相模湾から土佐湾にかけての浅海から知られている。日本海新記録。

144. ムラサキゴカクガニ *Echinoecus nipponicus*

Miyake, 1939

(図 32-143)

甲幅1 cmほどの小型種で、甲の輪郭はやや横長で丸みのある五角形であるが、額部の形状に関しては変異がある。甲面は平らで滑らか。甲域は不明瞭。甲、はさみ脚、歩脚とも紫色で、甲面の後部左右に長卵形の白い部分がある。ムラサキウニやアカウニの棘の間(特に下面の口周辺に多い)にすむ。額部が大きく突出している個体や甲が角ばった五角形の個体などがあるが、生態的にも多様で、ハワイなどではウニの殻の内部に「虫こぶ」を造って入っている場合さえある。近年は1種だけではないと考えられるようになり、日本産の学名は *Echinoecus nipponicus* とされる。

分布 — 相模湾から九州西部まで各地のウニから見いだされるが、琉球列島以南のどこまで分布するかは定かではない。日本海新記録。

145. コマチガニ *Harrovia japonica* Balss, 1921

(図 33-144)

甲幅1.5 cm、甲長1 cm。甲は六角形で、甲面は盛り

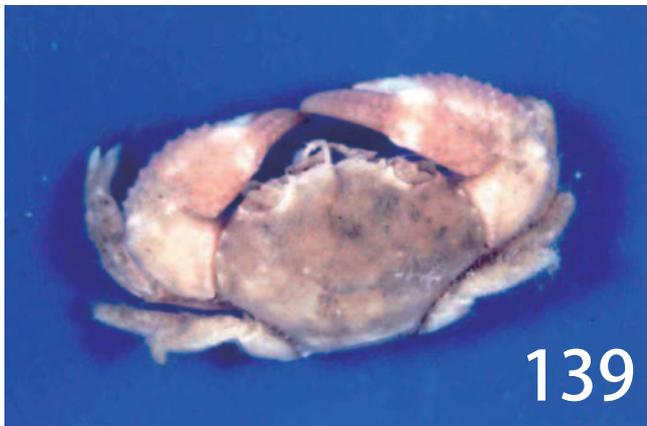


図 32 (ケブカガニ科) . 136: イボテモドキ *Actumnus forcigerus* (Stimpson, 1858). 137: ミゾイボテガニ *Actumnus intermedius* Balss, 1922. 138: スエヒロイボテガニ *Actumnus setifer* (De Haan, 1833). 139: イボテガニ *Actumnus squamosus* (De Haan, 1835). 141: バルスガニ *Calmania balssi* (Sakai, 1935). 142: カルマンガニ *Calmania prima* Laurie, 1906. 143: クシハガニ *Ceratoplax sagamiensis* Sakai, 1935. 144: ムラサキゴカクガニ *Echinoecus nipponicus* Miyake, 1939.



145



148



146



149



147



150

図 33 (ケブカガニ科の続き) . 145: コマチガニ *Harrovia japonica* Balss, 1921. 146: オキナガニ *Heteropilumnus ciliatus* (Stimpson, 1858). 147: ヒメケブカガニ *Pilumnus minutus* De Haan, 1833. 148: トラノオガニ *Pilumnus trispinosus* (Sakai, 1965). 149: ツブメクラガニ *Typhlocarcinodes hirsutus* (Borradaile, 1903). 150: モールスガニ *Xenophthalmodes morsei* Rathbun, 1932.

上がらない。甲域は不明瞭に分かれているが、胃域の前に左右に並んだ隆起部がある。額は幅広く、切断された2葉からなる。甲の前側縁は、接した2葉が肝域部にあり、その後ろに続く尖った2歯が側方に突出している。はさみ脚は雄では歩脚よりも長い。歩脚は第1対目が最も細く、最も長い。岩礁のウミシダ類(旧名コマチ)の仮根の隙間にすむ。

分布 — 日本固有種。房総半島から九州沿岸までの太平洋岸、秋田県以南の日本海沿岸に分布する。鳥取県

沿岸新記録。

146. オキナガニ *Heteropilumnus ciliatus* (Stimpson, 1858)
(図 33-145)

甲幅 1.5 cm で、甲の輪郭は丸みの四角形。甲面は平らで、甲域は不明瞭。軟らかい短毛で覆われ、額縁と甲の前側縁は長毛で縁取られている。甲の前側縁は4歯に切れ込まれているが、各歯が甲の輪郭から突出することはない。はさみ脚、歩脚とも長毛で覆われてい

る。岩礁の石の下に生息する。

分布 — 相模湾から九州に分布するほか、秋田県以南の日本海沿岸、韓国、中国北部からも知られている。鳥取県沿岸新記録。

147. ヒメケブカガニ *Pilumnus minutus* De Haan, 1833

(図 33-146)

甲幅約 1 cm の小型種。甲は半球形で、一面に長い剛毛で覆われている。甲域は不明瞭。甲の前側縁には眼窩外歯上の棘を除いて 3 本の棘がある。はさみ脚は左右不同で、大きい方ははさみの掌部外面が滑らか。歩脚の長節前縁末端に 1 棘ある。

分布 — 北海道を除く全沿岸の浅海岩礁に生息する。インド西太平洋各地からの記録があるが、正確な分布は不明である。

148. トラノオガニダマシ *Pilumnus trispinosus* (Sakai, 1965)

(図 33-147)

甲幅 9 mm ほどの小型種で、一見トラノオガニに似ている(和名の由来)。甲の輪郭は幅の狭い楕円形であるが、甲の後方がやや狭まる。甲面は滑らかで、甲域は不明瞭。胃域に小顆粒と毛の横稜がある。甲の前側縁の 4 歯はトラノオガニのような明瞭な歯ではなく、先端に小棘がある。はさみ脚は腕節と掌部に小顆粒で覆われている。

分布 — 日本固有種。相模湾から紀伊半島までの太平洋岸の岩礁に生息するほか、日本海では富山湾と鳥取県沿岸から知られている。

149. ツブメクラガニ *Typhlocarcinodes hirsutus*

(Borradaile, 1903)

(図 33-149)

甲幅 1.2 cm, 甲長 1 cm ほどの小型種で、甲の輪郭は丸い。甲面は強く湾曲し、各甲域は細くて深い溝で区分されている。甲域は盛り上がりせず、細かい顆粒で一様に覆われている。甲の前側縁には浅い切れ込みが 2 つあり、全体として丸く湾曲し、後側縁にそのまま続く。額縁、はさみ脚、歩脚に長い羽毛状の毛が列生している。第 1 触角窩の後方(口前部)と口郭の前縁との間に境界がない。

分布 — 相模湾から九州、日本海の島根県と山口県の浅海(水深 35-100 m)に生息し、フロレス海(インドネシア)とモルジブ諸島(インド洋中部)からも記録されている。鳥取県沿岸新記録。

150. モールスガニ *Xenophthalmodes morsei* Rathbun, 1932

(図 33-150)

甲幅 1 cm ほどの小型種で、甲は前方に強く狭まっている。甲面は前後に湾曲し、軟らかい短毛で覆われている。甲域は不明瞭。額は狭くて下垂し、中央の小さな切れ込みで 2 葉に分かれている。甲の側縁に切れ込みはない。はさみ脚は短く、腕節の内角は鋭い棘に、掌部の上縁は稜になっている。

分布 — 日本固有種。相模湾から九州北部までの浅海泥底に生息するほか、日本海では秋田県沿岸から記録されている。鳥取県沿岸新記録。

XXX. イワガニ科 GRAPSIDAE

151. イワガニ *Pachygrapsus crassipes* Randall, 1840

(図 34-151)

甲幅 3 cm ほどで、甲の輪郭はわずかに横長の四角形。甲面の盛り上がりは弱く、光沢があるが、多数の横筋がある。甲の前側縁には眼窩外歯の後方に 1 歯ある。はさみ脚は滑らかで毛がなく、雄では長大。成熟した雄では両指の基部に大きな肉球が発達する。歩脚は丈夫で、長節前縁の末端近くに 1 歯ある。

分布 — 北海道南部から九州までの全沿岸、韓国沿岸の磯に生息する。原産地は不明であるが、北アメリカ西岸にも分布している。

XXXI. モクズガニ科 VARUNIDAE

152. ヒメアカイソガニ *Acmaeopleura parvula*

Stimpson, 1858

(図 35-152)

甲幅 1 cm ほどの小型種で、甲の輪郭はやや横長の楕円形。甲面は平らで、短毛で密に覆われている。甲



図 34 (イワガニ科) . 151: イワガニ *Pachygrapsus crassipes* Randall, 1840.

の前側縁は丸く湾曲し、無歯。はさみ脚、歩脚とも甲面と同じような短毛で覆われ、はさみ脚の両指の基部に長毛の集まりがある。

分布 — 男鹿半島および相模湾から奄美大島まで、黄海沿岸。礫海岸の満潮線付近に生息する。鳥取県沿岸新記録。

153. ハマガニ *Chasmagnathus convexus* (De Haan, 1833)
(図 35-153)

甲幅 4.5 cm に達する大型種。甲はやや横長で、輪郭は丸みを帯びた四角形。甲面は短毛で覆われ、深い溝で甲域に区分されているが、胃域を左右に分ける正中線の溝は特に深い。額縁と甲の前側縁は板状で背面に反り返っている。甲の前側縁は眼窩外歯を含めて大きな 3 歯に切り込まれているが、甲の輪郭からは突出しない。はさみ脚は強大であるが、歩脚は体の大きさに比較して細長い。

分布 — 本州、四国、九州の太平洋岸、日本海では鳥取県と島根県、琉球列島。河川の汽水域上限近くに多く、堤防などに深い穴を掘ってすむ。

154. アカイソガニ *Cyclograpsus intermedius* Ortmann, 1894
(図 35-154)

甲幅 2 cm ほどで、比較的歩脚が長い。甲は硬く、輪郭は丸みを帯びた四角形に近い。甲面は盛り上がることはなく、滑らかで光沢がある。甲域は不明瞭。額縁、甲の前側縁とも狭い縁取りがある。甲の前側縁には眼下外歯を含めて互いに接した 3 歯があるが、甲の輪郭から突出することはない。

分布 — 北海道南部以南の日本海側、相模湾以南の太平洋側九州まで、琉球列島、韓国。礫の多い外洋性海岸に生息する。

155. モクズガニ *Eriocheir japonicus* (De Haan, 1835)
(図 35-155)

甲幅 5 cm ほどの有名な食用ガニ。甲の輪郭は丸みを帯びた四角形で、わずかに横長。甲面は浅い溝で甲域に分けられているが、全体として扁平である。額縁は中央のくぼみで 2 葉に分けられていて、歯状にはなっていない。甲の前側縁は眼窩外歯を含めて 3 歯に切り込まれているが、先端が甲の輪郭から突出することはない。はさみ脚は左右同大で、特に成熟した雄では大きく、掌部が長軟毛で覆われている。

分布 — 樺太、北海道から九州までの全沿岸、琉球列島、台湾、朝鮮半島東側。成体は河川の中流域で生活しているが、繁殖期には川を降りて河口から浅海で生

活する。幼生は海で生活し、稚ガニになって河川を遡上する。ズガニ、ケガニ、モクゾウ、カワガニなど日本全国に多くの地方名がある。

156. ヒライソガニ *Gaetice depressus* (De Haan, 1835)
(図 35-156)

甲幅 2.5 cm ほど。甲の輪郭は丸みのある四角形で、後方がやや狭い。甲面は光沢があり、全体が見るからに平らである。第 3 顎脚の長節と座節が斜めに関節している特徴は他のカニ類では見られない。はさみ脚は特に雄では強大で、はさむ力が強い。甲面の色は純白から紫褐色まで、また模様も個体ごとに異なる。

分布 — 北海道から九州までの全沿岸、韓国、沖縄、台湾、中国北部に分布し、外洋性の磯に生息する。

157. ケフサイソガニ *Hemigrapsus penicillatus*
(De Haan, 1835)
(図 35-157)

甲幅 3 cm ほどで、甲の輪郭は丸みを帯びた四角形。前側縁の 3 歯を含めて甲の輪郭はイソガニに似ているが、一様に地味な灰緑色であること、甲面がやや盛り上がっていることにより区別することができる。また、十分に成長した雄では、はさみ脚の両指の基部に軟毛の房がある(和名の由来)。Asakura & Watanabe (2005) によりケフサイソガニの隠蔽種として *H. takanoi* が新種記載された。甲の形態や雄の第 1 腹肢などの詳細な比較に加えて、斑紋なども異なるようである。しかし、Ng *et al.* (2008) が論じているように、従来ケフサイソガニのシノニムとして扱われてきた *Brachynotus brevidigitatus* Yokoya, 1928 との異同が論議されておらず、種名は *Hemigrapsus brevidigitatus* (Yokoya, 1928) となる可能性がある。

分布 — 北海道から九州までの全沿岸、韓国、沖縄、台湾、中国北部に分布し、内湾の汽水域干潟に生息する。

158. イソガニ *Hemigrapsus sanguineus* (De Haan, 1835)
(図 35-158)

甲幅 3 cm ほど。甲の輪郭は丸みを帯びた四角形で、わずかに横長。甲面の膨らみは弱く、甲面は滑らかで光沢がある。甲の前側縁には眼窩外歯を含めて幅広い 3 歯がある。先端は尖っているが、甲の輪郭から突出することはない。甲面には紫褐色の斑点、歩脚には縞模様がある。

分布 — 樺太、北海道から九州までの全沿岸、琉球列島、朝鮮半島、中国、台湾、ハワイ、オーストラリア。岩礁を代表するカニ。近年は北アメリカ大西洋側にも



152

生息する。

XXXII. ベンケイガニ科 SESARMIDAE
159. クロベンケイガニ *Chiromantes dehaani*

(H. Milne Edwards, 1853)

(図 36-159)

甲幅, 甲長とも 4 cm ほど。甲の輪郭は四角形。甲域は深い溝で分けられており, 鰓域に斜めの線状隆起が並んでいる。甲の側縁に切れ込みはない。はさみ脚



153



156



154



157



155



158

図 35 (モクズガニ科) . 152: ヒメアカイソガニ *Acmaeopleura parvula* Stimpson, 1858. 153: ハマガニ *Chasmagnathus convexus* (De Haan, 1833). 154: アカイソガニ *Cyclograpsus intermedius* Ortmann, 1894. 155: モクズガニ *Eriocheir japonicus* (De Haan, 1835). 156: ヒライソガニ *Gaetice depressus* (De Haan, 1835). 157: ケフサイソガニ *Hemigrapsus penicillatus* (De Haan, 1835). 158: イソガニ *Hemigrapsus sanguineus* (De Haan, 1835).

は強大で、顆粒に覆われ、長節縁、掌部の基部縁が板状になっている。褐色を帯びた紫褐色で、はさみ脚の色は明るい。

分布 — 男鹿半島および房総半島以南、九州、琉球列島、韓国、中国。河口域の砂泥地に生息するが、流れに沿って海水の影響のない場所まで河川を溯上し、また水田に侵入することもある。

160. アカテガニ *Chiromantes haematocheir* (De Haan, 1833)
(図 36-160)

甲幅 3 cm ほど。甲の輪郭は四角形で、側縁に切れ込みはない。甲面は滑らかで光沢がある。額域のみ背面より低い位置にあり、背面の甲域は細い溝で区画されている。はさみ脚は、特に成熟した雄では強大で、両指は湾曲して間に広い空間ができる。はさみ脚が紅赤色である(和名の由来)。多くの個体は灰緑色で、額部と眼域、甲の前側縁部が黄褐色であるが、小型個体では甲、はさみ脚、歩脚とも褐色である。また、老成個体には全体が紅赤色のものもいる。

分布 — 東北地方から九州までの両沿岸、韓国、中国北部。河口から海水の影響のない上流まで生息域を広げるが、夏の繁殖期には沿岸に集まって幼生を海に放つ。

161. カクベンケイガニ *Parasesarma pictum* (De Haan, 1835)
(図 36-161)

甲幅 2 cm ほどの小型種。甲はわずかに横長の四角形で、側縁に切れ込みはない。甲域はやや深い溝で区画されている。はさみ脚は体に比較して大きく、掌部の上縁基部に 2, 3 列の櫛状突起がある。可動指の上縁に基部から先端近くまで 13-16 個の発音顆粒が並んでいる。左右の可動指を摺り合わせて発音するという。分布 — 男鹿半島および房総半島以南九州、奄美大島、韓国、中国北部。水から離れて生活する。鳥取県沿岸新記録。

162. ベンケイガニ *Sesarmops intermedius* (De Haan, 1835)
(図 36-162)

甲幅 3 cm。甲の輪郭は四角形で、甲面は弱く盛り上



159



161



160



162

図 36 (ベンケイガニ科) . 159: クロベンケイガニ *Chiromantes dehaani* (H. Milne Edwards, 1853). 160: アカテガニ *Chiromantes haematocheir* (De Haan, 1833). 161: カクベンケイガニ *Parasesarma pictum* (De Haan, 1835). 162: ベンケイガニ *Sesarmops intermedius* (De Haan, 1835).

がっている。甲域は不明瞭であるが、額部の後ろの4本の横稜が強い。額は下垂し、縁は中央で深くくぼむ。甲の前側縁は左右真直ぐで、眼窩外歯の後方に深い切れ込みがある。甲、はさみ脚、歩脚は一樣な赤橙色であるが、濃淡には変異がある。

分布 — 房総半島から九州，韓国，中国北部に分布し、河口の沿岸にすむ。

XXXIII. ショウジンガニ科 PLAGUSIIDAE

163. ショウジンガニ *Plagusia dentipes* (De Haan, 1835)

(図 37-163)

甲幅 6 cm，歩脚を広げると 20 cm 以上になる大型種。甲の輪郭は丸みのある四角形で、甲面は全体として弱く盛り上がる。甲域は浅い溝で分けられており、顆粒も集まっている。溝の部分には短毛が密に生じている。額は中央の深い切れ込みで二分し、また、第1触角窩、眼前歯の棘状突起によって、全体として8歯からなる。甲の前側縁は眼窩外歯の後方に3本の鋭い突起がある。はさみ脚は雄では強大で、各節とも顆粒列で覆われて



図 37 (ショウジンガニ科). 163: ショウジンガニ *Plagusia dentipes* (De Haan, 1835). 164: イボショウジンガニ *Plagusia squamosa* (Herbst, 1790).

いる。歩脚の長節の前縁に大小 10 本ほどの棘状歯が並んでいる。

分布 — 本州北部から南の太平洋岸，山形県以南の日本海沿岸，南太平洋まで各地の潮間帯から水深 20 m くらいまでの岩礁に生息する。

164. イボショウジンガニ *Plagusia squamosa* (Herbst, 1790)

(図 37-164)

甲幅 5 cm ほど。甲の輪郭は丸みのある四角形で、後方にやや開く。甲面が全体として盛り上がっている。ショウジンガニに似ているが、甲面には顆粒はなく、代わりに鱗状を呈する。滑らかな個々の「鱗」の表面は滑らかで、周囲を短毛で囲まれている。甲の前側縁は眼窩外歯の後方に4小歯がある。はさみ脚は雄でもあまり太くなく、腕節は滑らか、掌部には小顆粒がある。歩脚の長節前縁には歯がなく、末端に1歯あるのみ。長節の上面を斜めに横切る稜があり、短毛が生じている。また、腕節と前節の前縁に長毛が列生している。波の荒い岩礁に生息し、様々な漂流物について沖合を移動する。

分布 — 房総半島および秋田県以南，インド西太平洋に広く分布する。

XXXIV. カクレガニ科 PINNOTHERIDAE

165. オオシロピンノ *Arcotheres sinensis* (Shen, 1932)

(図 38-165)

雌は甲幅 1.5 cm ほどで、カクレガニ類としては大型。甲の輪郭は丸みのある五角形ないし楕円形で、背面は強く盛り上がっている。甲の後縁は弱くへこんでいる。第3顎脚の指節は、前節の内側の基部近くと関節し、棒状で、先端は前節の先端にわずかに届かない。歩脚は細長い。第3,4対の指節は長く、短毛が輪生している。ハマグリ、アサリ、ムラサキガイなどに入る。雄は甲幅 4 mm ほど。

分布 — 房総半島から九州沿岸，日本海全沿岸，韓国，中国北部から知られているが、Ahyong and Ng (2007) により日本産種は中国産種とは異なる可能性が指摘されている。

166. フジナマコガニ *Pinnaxodes major* Ortmann, 1894

(図 38-166)

雌は甲幅 1.5 cm ほどであるが、雄は 1 cm ほど。甲の輪郭はやや横長の丸みを帯びた四角形。雌では背面がやや盛り上がっているが、雄ではやや平たい。雌ではほとんど無毛であるが、雄は短毛で覆われている。第3顎脚の指節は前節の内縁と関節し、先端はスプー